

## 先輩から



### 米国公認会計士の道へ

— 監査法人でまだ勉強中 —

張 宏武 (2020 博 商学研究科)

私は大学(中国の東北財経大学)の専攻が情報管理であったが、米国公認会計士(以下、U.S.CPA)を目指して、2011年に関西大学会計専門職大学院に進学し、2013年に卒業を迎えた。残念ながら在学中にU.S.CPAの試験に合格できなかった。原因としては次の2つにあると考えている。一つ目はこの試験が元々会計専門の経験者を対象に設けた試験で、基礎知識を持っていない他専攻の在学学生にとってはかなり難易度が高い。もう一つは受験重視で数式等を丸ごと暗記していただけで、理論知識への理解が浅かった。

基礎知識や業界への理解をより深めようと考え、会計専門職大学院を卒業後、商学研究科博士後期課程に進学し、水野先生の研究室に所属した。水野先生の研究室で、理論知識を深めただけではなく、企業見学を通じて異なる経営モデルについての理解も深めた。水野先生の研究分野は人本主義経営であるため、先生のもとで異なる経営理念を持っている企業を知ることができた。そういった企業見学を通して自分の視野を広げたことが明らかだった。長野県のある寒天を作る食品メーカーを例として挙げてみよう。この企業の経営理念は年輪経営で創業以来48年連続増収増益を達成できた。企業の経営目的は売上、利益目標の達成ではなく、社員とその家族の幸せを追求するものであった。私はこの企業の経営にとても感心した。

また、水野先生のご紹介で非常勤講師として2年間ほど、簿記を教えることができた。これは非常にいい経験だった。簿記を教えることによって、今まで覚え

た知識への理解を深めたし、とても勉強になった。また、教えることが学生とのコミュニケーションも必須なので、コミュニケーション能力も上げられた。ほとんどの学生と同じように、アルバイトをしながら学業もあり、U.S.CPA受験にも励まないといけないため、両立することが難しかった。しかし、失敗を恐れずに目標に向けてひたすら努力したおかげで、水野先生の研究室に在学中の2018年ようやくU.S.CPA試験に合格した。そこで、水野先生と相談し、休学して就職することに決めた。これは私にとって大きな決断だった。博士後期課程の単位は取得済であるため、博士の学位はもちろん取りたかったが、一刻も早く勉強した理論を実践してみたかった気持ちが勝った。

そこで公認会計士として外資系の監査法人(PwC京都監査法人)に勤務し始めた。メインの仕事内容は上場企業に対する監査業務である。最初、一番感じたのは学校で勉強した理論知識や受験で覚えた内容をいざ実践で試そうとしたら、大きな違いがあった。先輩方のご指導や自己研鑽でなんとか今に至った。監査の仕事なので、毎年4月、5月頃は一番忙しい時期である。コロナ禍でリモートワークになり、その忙しさは更に増した。去年の3月から現在まで、やむを得ずクライアントへの往査が中止になり、リモートでのコミュニケーションが普段より難しくなり、コミュニケーション能力がいかに重要なのかしみじみに感じた。

会計士としての仕事はまだ2年ほどしかない。今後も引き続き自己研鑽し、模索していくつもりである。